

サブリーダー合同研修

令和2年11月20日(金)
場所 呉市役所

研修テーマ 「より主体的・積極的に学校経営に参画するためには」
～学校諸費会計の適正化をめざして～

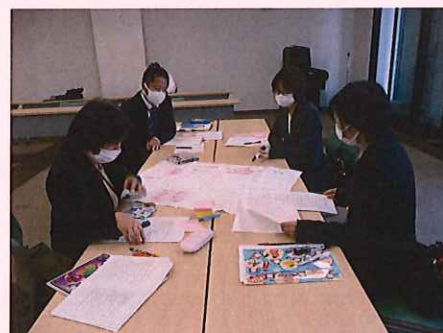
講師 呉市教育委員会 教職員管理グループ 木屋主任管理主事

オリエンテーション はじめに、研修の進め方と日程、役割分担について説明。
前年度に引き続き、ビジネスデザイン法によるグループワークを行いました。

グループワーク

- ステップ1 あるべき姿(実は問題)を考える。
あるべき姿を3つのグループに分類し、最も望ましいカードを抽出する。
- ステップ2 3枚のカードごとに、真の原因を探る。
重要かつ解決の可能性の高いと思われるカードを抽出する。
- ステップ3 項目ごとに解決策を考える。
重要かつ期限内で実行の可能性が高いと思われるカードを抽出する。

A班の様子



B班の様子

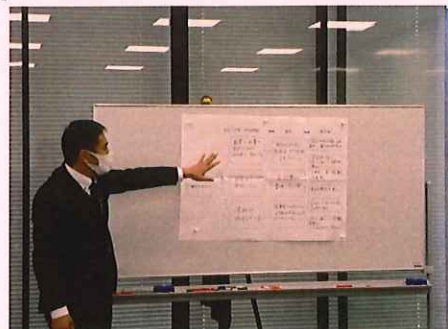


2班に分かれて、個々の意見を付箋に書き出し、活発に意見交流が行われました。

発表 A班



B班



講 評

呉市教育委員会 木屋主任管理主事様から、次のような講評をいただきました。



本日の学校諸費会計の課題の中に「個」「学校組織」「保護者」の3つが出てきている。

「個」・・・個々の教職員が理解しているか。個の研修。

「学校組織」・・・会計簿の整理・監査。組織として管理運営ができているか。

学校において、すべての教職員で自分たちの中で何が足りないのか、所属校の課題がどこにあるのかという視点を持つことが必要。

自校の課題を見つけた時には、管理職に積極的に進言する。事務センターにおいても、人材育成という視点で声掛けをする。

不祥事を防止するために、「方法をしっかりとつ」「意識を変える」という2つの視点を大事にする。

総括事務長及び事務長のアンケートから(抜粋)

・木屋主任管理主事様の講評では、2つの班の共通点に視点を当てたり、懲戒処分事例の引用により、ぼんやりとしていた課題が鮮明に浮かび上がったように感じました。個と学校組織と保護者、それぞれの課題解決に取組み、関係者が連携していくことが学校諸費会計の適正化につながるのではと思いました。

・「学校諸費会計の適正化をめざして」というテーマで熱心にグループワークをされ、解決策を見出されていました。いろいろな話をする中で、ヒントになる部分を見出せたり、自分の考えの再確認等につながったと思います。学校やセンターの中で生かしてほしいと思います。

サブリーダーの感想から(抜粋)

・学校規模、学校形態は違って悩んでいるところは同じなのだなと思いました。それぞれの悩みや、解決方法を探っていくうちに、自分とは違う意見や考え方、自分では決して出てこないであろうアイデアが出ることもあって、とても有意義な時間になりました。

・自分たちの所属でできていないことから「あるべき姿」を考え、どうしたらそれを実現できるかを考える、という研修でしたが、他の方々の実践例などを聞き、自分で学校諸費について取り組んでいることで、「毎年これをやっている」「これ以上は無理」と思っていることが、毎回同じことを取り組むのではなく、時には方法や手段を変えることも有効であると感じました。

・あるべき姿を思い浮かべ、それができない原因を考え、原因を取り除く方策を考えることで現在の問題を改めて考えることができた。

学校諸費会計の適正化をめざして、まずは職員全員が会計について理解すること、そのために事務職員としてできることは何かを考えることができた。